

検体の採取条件

- 採血は皮膚・被毛を消毒用アルコールで消毒し、アルコールが乾いてから行ってください。
- 容器への分注は容器のキャップを開け、溶血を防ぐため注射器の針を外した上で容器の壁を伝わるようゆっくりと血液を流し込んでください。
- 血清、血漿を分離する際は遠心機の遠心力を2,000Gで5～10分で遠心してください。(回転数:おおよそ3,000～4,000RPM※機種によって異なります)
- 本案内書には、およその採取量・提出量を記載しております。検体量不足にならないようご注意ください。
- 培養を伴う検査の検体採取は、無菌的に行い、滅菌容器にてご提出下さい。

検体の保存条件

- 検査精度を維持するために、検体の採取後、提出されるまでの間、所定の保存条件を遵守して下さい。
- 本案内書「保存方法」欄をご参照の上、凍結検体の場合は、冷凍庫またはドライアイス中で保存をお願いいたします。(ドライアイス中保存の場合備考欄にドライアイス保存と記入願います。)冷蔵検体の場合は、冷蔵庫でも4℃前後の保存をお願いいたします

凍結	必ず凍結保存してください。 なお、凍結指定の項目については原則として単独検体での出検をお願いいたします。
冷蔵	4℃前後で保存してください。 また、数日以上にわたって保存される場合は、凍結していただくようお願いいたします。
常温	直接日光、暖房機付近を避け、20℃前後の室温で保存してください。

検体の受領

- 検査のご依頼の際は、当社の営業員が受領に伺いますので検査依頼書と検体を照合の上、ご提出ください。なお、一部地域においては宅配便でのご提出をお願い致します。

検体の送付方法

- 検査依頼書と検体を照合の上、各検査項目に適した保存条件で送付してください
- 冷蔵や冷凍保存のものはクール便などをご利用ください。
- 発送にかかる送料は、お客様負担となりますので予めご了承ください。
- 送付の際、日曜祝祭日の着日をお避け下さい。

検体の材料について

- 検査材料欄記載の材料以外でのご依頼については、予め担当営業員にご相談下さい。

所要日数

- 検体をお預かりした翌日を起算日とし、検査結果を先生のお手元にお届けするまでの当社営業日数です。(日・祝日を除く)
- 依頼検査項目の組み合わせにより、所要日数の長い項目に準ずる事があります。再検査の場合は、さらに若干の日数を要することがあります。

検査結果のご報告

- 検査結果は、FAXにて報告後、後日正式報告書をお届けいたします。

再検査

- 当社の再検査基準に基づき、自動再検査をいたします。最小必要検体量にてご依頼の場合、量不足のため再検査に応じられない場合があります。

検体の保管

- 検査実施後の検体は、当社規定により一定期間保存させていただきます。
- 保管日数はお預かりした検体の種類によっても異なりますが、腐敗・変性の著しい材料は検査実施後速やかに処分させていただきますので、予めご了承ください。

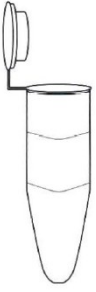
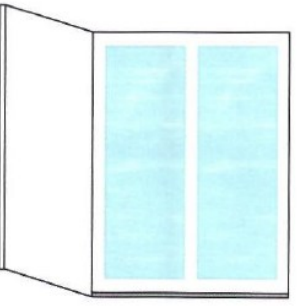
検査についてのお問い合わせ

- 検査内容等のお問い合わせ・ご意見・ご指摘につきましては、当社営業担当者にお申し付け下さい。

料金のご請求とお支払方法

- 請求書は1か月分をまとめてお届けいたします。お支払い方法は契約に従ってお願いいたします。
- 請求書の検査項目名は当社所定の「検査略称」によって記載されますので、ご了承ください。
- お支払いは銀行口座振替または振込にてお願いいたします。口座振替をご利用いただく場合、月毎に振替通知書をお届けいたします。なお、銀行振り込みの場合は、振込金受取書を持ちまして、領収書にかえさせていただきます。

容器一覧

血清分離管  生化学、内分泌（ホルモン）、 ウイルス抗体検査など	EDTA塩入り採血管  血算（血球計数）、クームス試験、 その他特殊ホルモン検査（血漿）など	クエン酸Na入り採血管  凝固検査 規定量の採血をしてください 採血後、遠心をかけた上清を別容器にて凍結してください
ア^oロニン入りEDTA採血管  PTH-rpなど	マイクロチューブ  血清・血漿を使用する検査項目各種	アスロー管  血清・血漿を使用する検査項目各種
シードスワブ  細菌検査	滅菌スピッツ  尿検査、細菌検査の尿定量培養など	・名前（カタカナ） ・採取日 ・材料 必ず容器に記入してください。
病理容器  病理組織検査	スライドケース  細胞診	